TOPICS

トピックス

CONTENTS

製薬協 会長記者会見を開催
―産業ビジョン2035と政策提言2025を公表―

P.16

感染症対策、実行フェーズへ
―「第11回 日経・FT感染症会議」で
製薬協が特別セッションを開催―

P.17

NTDsの制圧に向けて次世代の発想を結集
―第二回顧みられない熱帯病コンテスト参画―

P.18

知財人材の新たな挑戦
―2025 ライフサイエンス知財フォーラム開催― P.19

Information

主な活動報告、今後の活動予定
(2024年11月1日～2025年6月30日) P.20

製薬協からのお知らせ P.22

製薬協 会長記者会見を開催

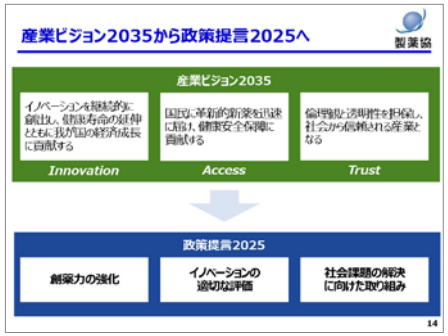
―産業ビジョン2035と政策提言2025を公表―

製薬協
上野 裕明 会長

2025年2月26日、製薬協の上野裕明会長は東京・中央区の室町三井ホール＆カンファレンスで記者会見を開催しました。

会見では、同日に公表された「製薬協 産業ビジョン2035」と「製薬協 政策提言2025」に関する説明があり、産業ビジョン2035では、「我が国、そして世界に届ける創薬イノベーション」を旗印に掲げ、3つの柱として「イノベーションを継続的に創出し、健康寿命延伸とともに我が国の経済成長に貢献する」「国民に革新的新薬を迅速に届け、健康安全保障に貢献する」「倫理観と透明性を担保し、社会から信頼される産業となる」が示されました。

産業ビジョンの実現に向けた政策提言2025も対応する3つの柱で構成され、1番目のInnovationには「日本の創薬力強化の重要性」、2番目のAccessには「イノベーションの適切な評価による魅力ある日本市場の形成」、3番目のTrustには「社会課題の解決に向けての必要な取り組み」が提言されました。



創薬力の強化では、「魔の川」と呼ばれるアカデミアの基礎研究と企業の創薬研究との間の大きなギャップを越えるべく、双方の歩み寄りの重要性を強調。また、患者さん・市民との「Co-creation＝共創」をキーワードとした取り組みの推進についても言及しました。次に、イノベーションの適切な評価では、日本市場の魅力向上に向け、3つの条件を提示。「市場全体が成長市場であること」「薬価制度がイノベーションを促進するに足る仕組みであること」「ビジネス判断における予見性が高い制度であること」が不可欠だと指摘しました。

最後に、3番目のTrustに通じる社会課題の解決に向けた取り組みが示され、製薬産業が国民の健康寿命延伸、健康安全保障、経済成長に貢献し「日本の基幹産業」と位置付けられる存在となるべく、これからも努力し取り組んでいくことが語られました。

本編はこちらから
ご確認ください!

感染症対策、実行フェーズへ

―「第11回 日経・FT感染症会議」で製薬協が特別セッションを開催―

登壇者

厚生労働省
健康・生活衛生局
感染症対策部長
鷲見 学 さん

エイトローズ
ベンチャーズ
ジャパン
パートナー
香本 慎一郎 さん

国際医療福祉大学
医学部
感染症学講座
代表教授
松本 哲哉 さん

日本製薬工業協会
会長
上野 裕明 さん

モデレーター
東京大学
先端科学技術
研究センター
教授
牧原 出 さん

2024年10月23日、「第11回 日経・FT感染症会議」において製薬協の特別セッション「感染症創薬エコシステムの確立～実行のフェーズに向けて～」が開催されました。

厚生労働省 健康・生活衛生局 感染症対策部長の鷲見学氏は「行動計画の抜本改正とDX推進によるR＆D強化」をテーマに講演。昨年7月に感染症危機対策の政府行動計画を抜本的に改正し、対策項目を6項目から13項目に拡大したことを説明しました。「ワクチン・治療薬・検査薬を独立項目として強化するには企業の関与が不可欠で、市場の予見可能性を高めるインセンティブの導入が課題」と指摘。また、DX推進による研究開発強化や、国立健康危機管理研究機構（JIHS）への期待も語りました。

エイトローズ ベンチャーズ ジャパン パートナーの香本慎一郎氏は「ベンチャーの好循環」をテーマに講演。日本のバイオベンチャーにおける1社あたりへの投資額は米国の25億円に対し日本は1.6億円にとどまる現状を指摘。「エコシステムを回すには十分な資金確保が難しい」と述べました。同氏は日本のベンチャーが米国に親会社を設立し資金調達する事例も提案しました。

国際医療福祉大学 医学部 感染症学講座 代表教授の松本哲哉氏は「アカデミアと企業の隔たりを縮める」必要性を強調。日本は学術論文数では世界5位だが、注目度の高い論文数では13位と低迷していることを挙げ、「論文数を稼ぐことに注力されている現状」を指摘しました。さらに「最も深刻なのは製薬企業とアカデミアの距離」と述べ、両者が自由に意見交換できるコンソーシアムの設立を提言。すでに基礎研究者と製薬協の意見交換会などを実施し、連携を深めていることを報告しました。

製薬協会長の上野裕明氏は「次の危機に備え、具体的イメージを共有する」ことの重要性を訴えました。この1年間で平時からの備えはかなり進んだと評価しつつ、JIHSへの期待や、プッシュ型・プル型インセンティブの重要性について言及。また「新型コロナから5年が経過し、10年に一度パンデミックが起こるとすれば平時の期間も半分が過ぎた」と警鐘を鳴らし、次の有事に備えた具体的な準備の必要性を強調しています。

パネルディスカッションでは東京大学 先端科学技術研究センター 教授の牧原出氏をモデレーターに、感染症創薬エコシステムにおける初動期の課題について議論。次のパンデミックに備えた展望が示された有意義なセッションとなりました。

本編はこちらから
ご確認ください!

NTDsの制圧に向けて
次世代の発想を結集
―第二回顧みられない熱帯病コンテスト参画―

コンテストファイナリストのみなさん

毎年1月30日は世界保健機関（WHO）が定めた「世界NTDの日」です。製薬協は2025年世界NTDの日に協賛し、国際委員会グローバルヘルス部会NTDサブグループが「世界NTDの日・日本実行委員会」の一員として、「第二回顧みられない熱帯病コンテスト」に参画しました。

NTDsは、熱帯・亜熱帯地域を中心にまん延している寄生虫や細菌による21の熱帯感染症を中心とした疾患群の総称。先進国からこれまで主要な疾患と考えられてこなかったことから「顧みられない熱帯病」と呼ばれています。現在、世界の5人に1人、約16億人以上の人々に影響を与えており、その対策は重要な課題となっています。

今回のコンテストは、若い世代にNTDs制圧の重要性を訴え、理解や関心を高めることを目的として開催されました。コンテストは「わかりやすく伝える部門」と「日本ができることを考える部門」の2部門が設けられ、中学生から大学院生までが自由に作品を応募。学生たちの柔軟でユニークなアイデアが多く表現された場となりました。

表彰式では、最優秀賞（A・B部門）、U-18特別賞（A・B部門）、日本製薬工業協会賞、GHIT賞が発表されました。製薬協賞はMusic Video「Neglection Toward Distance」に贈られました。この作品は、重たいテーマであるNTDsを非常にわかりやすいキーメッセージに落とし込んで伝えており、NTDsの認知度向上に寄与すると期待されています。

受賞者からは「コンテストに応募するまでNTDsをまったく知らず、調べていくうちに多くの病気があることに驚きました。日本では簡単に手に入る薬で治る病気なのにとても困っている人がたくさんいることを知り、私が健康でいられることは当たり前ではないと思いました」というコメントが寄せられました。

2024年に続き2回目となる今回の取り組みは、学生のアイデアを形にしてNTDs制圧の重要性を訴える試みとして成功裏に終わりました。この活動が、一人でも多くの方にNTDsについて知っていただく機会となることが期待されます。

本編はこちらから
ご確認ください!

知財人材の新たな挑戦

—2025 ライフサイエンス知財フォーラム開催—

登壇者

株式会社イーパテント 代表取締役社長／ 知財情報コンサルタント®	株式会社 東京大学TLO 代表取締役社長 弁理士	特許庁 総務部 企画調査課 知的財産活用企画 調整官	株式会社 シクロ・ハイジア 代表取締役CEO	日本製薬工業協会 知的財産委員会 委員長
野崎 篤志 さん	**本田 圭子** さん	**金子 秀彦** さん	**小林 誠** さん	**奥村 浩也** さん

2025年2月4日、ソラシティカンファレンスセンター（東京都千代田区）において、製薬協主催の「2025 ライフサイエンス知財フォーラム」が開催されました。今回は「転換期に来た知的財産業務～それを扱う人材に求められること」をテーマに、産学官の有識者5名による講演とパネルディスカッションが行われ、会場とオンラインのハイブリッド形式で約250名が参加する盛況となりました。

株式会社イーパテント 代表取締役社長の野崎篤志氏は「生成AIを抜きにして知財人材を語ることはできない」と指摘。すでに6種の生成AIを目的に応じて使い分け、業務効率化のサポートツールとして活用していると説明。知財人材には学びで獲得する「ブライトサイドスキル」と、AIで代替できない「ダークサイドスキル」の両方が必要と強調しました。

株式会社東京大学TLO 代表取締役社長の本田圭子氏は、発明者インタビューからライセンス活動までを一人の担当者が一気通貫でプロデュースし、市場ニーズ等を研究者へフィードバックすることで社会実装の確度を高める同社の特徴を述べました。人材育成では、高いマインドセットの醸成と、成功事例が重要であると強調しました。

特許庁の金子秀彦氏は、スタートアップの事業成長に貢献する知財人材に必要な9つのスキル・マインドと、スタートアップに求められる6つの「知財アンテナ」を紹介。オープンイノベーション促進のためのモデル契約書やマナーブックについても説明しました。

株式会社シクロ・ハイジア 代表取締役CEOの小林誠氏は、知財人材がルール内で考える「規定演技」は得意でも、正解のない中で戦略を作る「自由演技」は苦手な傾向があるが、今後は後者が重視されると指摘。コーポレートガバナンス・コード改訂により企業活動を俯瞰する必要性が高まっていると強調しました。

日本製薬工業協会 知的財産委員会の奥村浩也委員長は、ニューモダリティの台頭による特許戦略の変化や、従来型の知財活動に加え、パートナー探索、評価、契約業務等の新たな役割が加わっている点を解説しました。

パネルディスカッションでは、「俯瞰力」「知的好奇心」の重要性や、事業フェーズに応じた知財スキルの必要性が議論されました。人材育成ではAI時代においても最終的な意思決定や創造性に人間の価値があるとの見解で一致しました。

本編はこちらから
ご確認ください!

12/9-10 | CMC Strategy Forum Japan 2024

Open in WEB

バイオ医薬品の研究開発促進CMC領域活性化にフォーカスした産学官での議論

2024年12月9～10日の2日間にわたり、CASSS(California Separation Science Society)主催の「CMC※ Strategy Forum Japan 2024」が東京マリオットホテル(東京都品川区)にて開催されました。日本だけでなくアジア、北米、欧州等9ヵ国から約100名の参加登録があり、非常に活発な意見交換が行われました。

※ CMC:Chemistry, Manufacturing and Control。医薬品製造および品質を支える統合的な概念

1/27 | 日欧定期協議

Open in WEB

欧州製薬団体連合会(EFPIA)との定期会合を実施

製薬協国際委員会欧米部会では、欧米の政府・製薬団体と協調し、国際的課題の解決を図る活動の一環として、欧州の製薬団体との定期会合を毎年実施しています。2024年度のEFPIAとの定期会合は、1月27日にオンライン形式にて開催。今回は双方合わせて約30名が参加し、活発な意見交換が行われました。

11月下旬 | 第14回 APAC(アジア製薬団体連携会議)開催に向けて

Open in WEB

東南アジア4ヵ国を訪問
～ミッション：革新的な医薬品をアジアの人々に速やかに届ける～

2025年で14回目の開催を迎えるアジア製薬団体連携会議(Asia Partnership Conference of Pharmaceutical Associations、APAC)は2025年4月22日に経団連会館(東京都千代田区)で開催します。今般、第14回APACの開催に向けてアセアン4ヵ国のAPAC加盟の業界団体と薬事規制当局を訪問しました。意見交換とともに、第14回APACの開催概要、カンファランスへの参加、セッションへのSpeaker/Panelistの派遣等の協力を依頼しました。

2/9 | 製薬協 Rare Disease Day 2025 シンポジウム

Open in WEB

「診断」に焦点をあて、患者支援団体、患者会、行政とCo-creation(共創)を目指して議論

製薬協とRDD※ Japan事務局は、野村コンファレンスプラザ日本橋(東京都中央区)で「製薬協 Rare Disease Day 2025 シンポジウム」を共催しました。今回のシンポジウムでは、「希少疾患における医療従事者の困りごとに関する調査」で明らかになった課題の中から「診断」に焦点をあて、製薬企業や患者支援団体、患者会、行政の各立場から取り組みや課題を共有し、議論しました。

※ Rare Disease Day(RDD):世界希少・難治性疾患の日

主な活動報告（2025年1月1日～3月31日）

1/23	**第274回 製薬協総会**　当面の諸課題	
1/23	**第225回 知的財産委員会総会**　委員会活動報告	
1/27	**日欧定期協議** 欧州製薬団体連合会（EFPIA）との会合	Open in WEB
1/31	**第32回 研究開発委員会総会**　2024年度活動報告、2025年度活動予定	
2/4	**2025ライフサイエンス知財フォーラム** テーマ：「転換期に来た知的財産業務 ～それを扱う人材に求められること～」	Open in WEB
2/9	**製薬協 Rare Disease Day 2025 シンポジウム** RDD Japan事務局／製薬協共催のRDD関連イベント	Open in WEB
2/20	**第581回 製薬協理事会**　当面の諸課題	
2/26	**製薬協会長記者会見**　会長就任以降の振り返り、 「製薬協 産業ビジョン2035」「製薬協政策提言2025」について	Open in WEB
3/7	**製薬協メディアフォーラム** テーマ：医薬品の多様な価値「新規モダリティがもたらす多様な価値とは －脊髄性筋萎縮症（SMA）を事例に－」	Open in WEB
3/13	**第226回 知的財産委員会総会**　委員会活動報告	
3/13	**日仏定期協議** フランス製薬協（leem）との会合	Open in WEB
3/17	**第36回 製薬協政策セミナー** テーマ：「日本の創薬力向上を目指して ～革新的新薬が社会にもたらす価値とは～」	Open in WEB
3/17	**2024年度 コンプライアンス管理責任者・実務担当者会** 特別講演：「AIガバナンス －信頼できるAIの活用に向けて－」	Open in WEB
3/21	**第275回 製薬協総会**　当面の諸課題	
3/21-23	**体験型イベント「製薬協 クスリウム研究室」** 科学技術館において、くすりの研究者やくすりにまつわる さまざまな知識を学ぶ体験型イベントを開催	Open in WEB
3/25	**2024年度 製品情報概要管理責任者・実務責任者研修会** 改定された作成要領の運用上の理解促進を目的として、 指摘の多いものを中心に取り上げ詳細な解説を行う	Open in WEB

今後の活動予定（2025年4月1日～6月30日）

4/14	**第32回 国際委員会総会**　2024年度委員会活動報告、2025年度活動計画
4/17	**第582回 製薬協理事会**　当面の諸課題
4/18	**第147回 医薬品評価委員会総会**　委員会活動報告
4/18	**第39回 薬事委員会総会**　委員会活動報告
4/18	**2025年度 医薬品評価委員会・薬事委員会合同総会** 特別講演会（厚労省、PMDA）
4/21	**第64回 品質委員会総会**　2024年度委員会活動報告、2025年度委員会活動計画、講演会
4/22	**第14回 アジア製薬団体連携会議（APAC）** アジアの製薬団体、政府機関、規制当局、アカデミア等と協力・連携する国際会議
4/23	**第14回 アジア製薬団体連携会議（APAC）コンベンション・記者会見** APAC13団体の年会、今期の成果報告・周知
5/10-14	**ICHマドリード会合**　ICH総会、管理委員会、EWG/IWG定例会議
5/14	**第4回 環境問題検討会総会** 2024年度検討会活動報告、2025年度検討会活動計画、講演会
5/15	**第227回 知的財産委員会総会**　委員会活動報告
5/19	**第10回 コード・コンプライアンス推進委員会総会** 2024年度委員会活動報告、2025年度活動計画
5/21	**2025年度くすり相談対応検討会総会**　2024年度活動報告、2025年度実施計画 他
5/21	**第33回 研究開発委員会総会**　2024年度委員会活動報告、2025年度活動計画
5/22	**第276回 製薬協総会、第583回 製薬協理事会**　当面の諸課題
5/22	**製薬協会長記者会見**　製薬協の取り組みについて
5/26	**第16回 バイオ医薬品委員会合同委員会** 2024年度委員会活動報告、2025年度活動計画
5/27	**第117回 流通適正化委員会総会**　2024年度委員会活動報告、2025年度活動計画
5/27	**第64回 広報委員会総会**　2024年度委員会活動報告、2025年度委員会活動計画
5/28	**第16回 患者団体連携推進委員会総会** 2024年度活動報告、2025年度実施計画 、特別講演
6/27	**第52回 GMP懇談会** テーマ：「持続可能な未来へ：信頼を礎とした医薬品製造の革新と安定供給の実現 －知識管理、連携強化とデジタル技術で実現する品質保証－」

製薬協からのお知らせ

■製薬協・政策研職員人事

2025年4月1日付までの職員人事を掲載しています。

Open in WEB

■2025年度 事業方針・事業計画・実施計画

本年度の事業方針・事業計画・実施計画を公開しました。

Open in WEB

■製薬協 産業ビジョン2035、製薬協 政策提言2025

2025年2月26日に「製薬協 産業ビジョン2035」、
および「製薬協 政策提言2025」を公開しました。

Open in WEB

■健康医療データ利活用に関する啓発動画の公開について

健康医療データ※を利活用する意義をわかりやすく啓発することを目的として、
2種類の動画を制作しました。

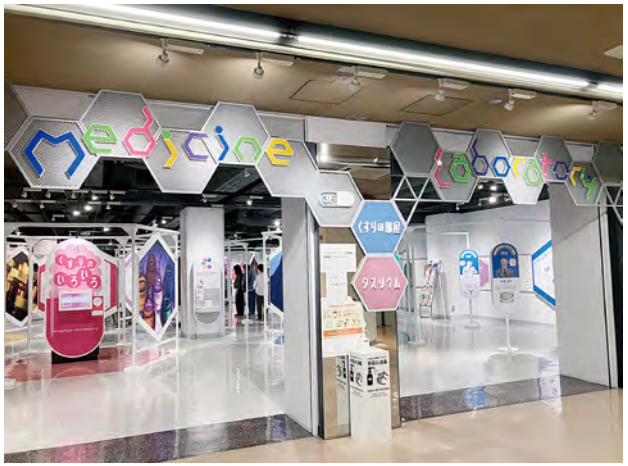
※ 健診・介護や日常的な活動で得られた健康データと、病院や診療所、調剤薬局で記録された医療に関するデータの総称

Open in WEB

■科学技術館「くすりの部屋－クスリウム」常設展示リニューアル

約5年ぶりに常設展示室へ3種の新展示を追加しました。

Open in WEB



■各種刊行物のご紹介

てきすとぶっく 製薬産業
2024-2025

Open in WEB

第18回 くすりと
製薬産業に関する
生活者意識調査

Open in WEB

DATA BOOK 2025

Open in WEB